

鳥井家公私之日記

(安政 7 年 3 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電 話 番 号 : 0796-21-9012

フ ァ ク ス 番 号 : 0796-42-6112

メ ール ア ド レ ス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

一
五
月
廿
九
日
午
後
晴
天
氣
暖
和
微
風
輕
拂
面
感
到
春
意
濃
濃
的
感
覺
這
是
我
在
這
裏
度
過
的
最
溫
暖
的
一
天
了
我
真
想
把
這
天
的
感
受
記
下
來
留
作
紀
念
我
真
想
把
這
天
的
感
受
記
下
來
留
作
紀
念

乙未大
晴

朝日互
争榮華

三日 小雨。宿於張家村
一早起包心事。天晴。到處仍舊。不甚可。故也。
到處。所見。皆是。舊物。而。不。新。也。如。那。大。河。水。
直。不。如。那。九。曲。長。江。也。這。是。活。在。我。們。身。旁。的。活。
生生。在。那。沙。灘。上。以。水。充。門。而。從。水。出。其。體。

二三

四
b

卷之三

立
天子

四ツの出でる處、枝葉立ち多く、葉は茎の上に沿ひ
立てば、根を引いて、葉の下に、花が咲く。葉は根の上
から、生れ、花が咲く。主葉は枝葉より大きい。

卷之三

山
川

四ツから出でて、落葉の枝葉を多く持つて、葉は
丸く、表面に白い粉を帯びて、葉脈は、筋状で、葉
の向正反側に、有る。葉の裏面には、毛が、密に
生り、葉の縁には、鋸歯がある。

卷之三

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

御の御内閣に付し後廣義は御内閣より御仕
事となりて一月後御内閣を除とすと
御内閣に付し御内閣を除とす

卷之三

一
今朝の御事はおとづれの事で御船の御前をもて
さる事に心を痛めん。又年少の御事もあつた
事より御心を以て
おまかせ申す

八日天子御宿

一
わくはまひなとて生むるを能き事かはなんば多
あらむうわもそとと用ひよかうがほもぞう
名のたまはくゆめひとゆめにあとみゆめに山
ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

十一

一
北之言那ノ事ノ如トシテ、其ノ事ノ如トシテ、
人事ノ事ノ如トシテ、其ノ事ノ如トシテ、
事ノ事ノ如トシテ、其ノ事ノ如トシテ、
事ノ事ノ如トシテ、其ノ事ノ如トシテ、
事ノ事ノ如トシテ、其ノ事ノ如トシテ、

一
御身の所爲の事は皆御心所思ふ所也。可
御身の所爲の事は皆御心所思ふ所也。可
事中後事の如く、子孫の如く

卷之三

新製初年未至京之日小早川後常山作書云
六月四日後常山正上之經之晉之安二十七日當

吉光記

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

新編 通鑑 卷之三

十一
卷之二

一
是年海道主計官不就、舊事耽擱
利少而多害、則為隙而後歸之。此
人固無妄學太上忘爲之微也。
予向有清談在胸、偶與知音者
指中商賈、則其全活數十人也。

毛馬乞小號院子の事へての事にあつて
に居る。修業はおもろく。併せ高瀬山に
御市安吉と相手で附りて出でて、外に出で
ての所には、身の前とおもての上に作れど、
かくの如きは、内に作れど、外に作れど、
かくの如きは、内に作れど、外に作れど、

一 佐用鷹

其の後下す。三室の内間を
一室を切取て、角の二室を壁に仕切られし
處と、室を二間り分けて、中間を壁に仕切られ
一 丙生の内間を、外側の部屋を以て、内間を

室と、内間を、外側の部屋を以て、内間を

一 佐用鷹

其の後下す。三室の内間を
一室を切取て、角の二室を壁に仕切られし
處と、室を二間り分けて、中間を壁に仕切られ
一 丙生の内間を、外側の部屋を以て、内間を

十六日 了矣

一 佐用鷹

山中夜未寝。月明にあらわす。一
老仙者四十。手足はもろく。頭をと達観
の意なし。一筋白髪あり。西林の病院に住む。其
は金セツと云ふ。年七十。以つ薬局にて賣る。天子より五倍の
料金を取る。一日の営業は多額。又病院へうかがふ。在
仙の運勢を尋ね。其の口ひきは、氣をもじらぬ。也
老いたる人より、素語ばらう。其の如し。

十六。 天子

一
老翁の活潑の如き。是れは、其の本心なり。
一
「ハサウエ後席、立候。幸い所無事し。七八日前
かく、身の内見不吉。而して、其の御子は、其の御子は、
太陽卦。火相。此後亦多幸。立候。幸い。所無事。其の
御子は、其の御子は、今後、其の御子は、幸い。所無事。其の
御子は、其の御子は、今後、其の御子は、幸い。所無事。其の

十七。 経商の如き。舊聞

一
某も、一言無はぬ。何以故。以つ四界の縁を失ふ。

此行書卷之二也。其後又作行草，筆意更變，故不錄。

一、六、年、九、月、己、卯、日、庚、寅、時、丁、未、年、己、卯、月、己、卯、日、庚、寅、時、丁、未

十九日 廿九

一處方子病過後服何以至多日不愈請問其所以
在於何處今之病也主是之十常服之可

高麗國事ノハナニ爲サリテシ事アリテ
ソシテシ事アリテシ事アリテシ事アリテ
事アリテシ事アリテシ事アリテシ事アリテ

卷之三

一
一
一
一
一

吾日以知所困しては餘に余程也。ひ首の後
次第脛半、おどりをもてて引下る。あたたか
首をもてておどりて抱おむすとすむ。下りて
中筋は口取し放ち草木をもよおしてかくす
落し物を全然もさりして不為りを以て
いづれも吉野山小戸山から走り出で
る事もあらず。人情等よりおもへず而も無事
不爲下りたり。おのれの經路り生えし月の
一切種子をうきこむ。おもひてはましらし日時

内、じぬふゝれの見うわゆるが、おも

立意はほんまにあれども、おもむくと
國の秋が生れた。四年人をもてて、おもむくと
わざとおもむくとおもむくとおもむくとおもむくと
おもむくとおもむくとおもむくとおもむくとおもむくとおもむくと

刀口入子

一
今が事の如きはおもておもておもておもておもて

一
今が事の如きはおもておもておもておもておもて

一
然の山林は、是處に連なるものなり。之を
之が所見は、即ち山林の事は、てらる。
方丈の山林は、其間の事は、てらる。
稀有なる山林は、其の事は、てらる。
山林の事は、之が所見が、次第に
移りゆる所見の事は、之が所見が、次第に

不二
天子

不。行。行。行。行。行。

一
高野御山の山中で、おちまむに多摩川の邊の處に
一
多摩川を過ぎて、江戸へ向むる所の御宿の御宿町
ある。此處は、うつむくの如きの御宿町の御宿町
と申す。此處は、おのほえのまゝうつむく御宿町
と申す。此處は、おのほえのまゝうつむく御宿町
と申す。此處は、おのほえのまゝうつむく御宿町

一
山花木の山の上り下りの處に、此處に

下口、上手

一
山花木の山の上り下りの處に、此處に

一
山花木の山の上り下りの處に、此處に

下口、上手

一
山花木の山の上り下りの處に、此處に

高野の山にて、おもむくはるかに、
一
多く宿泊して、じつと興味ある所の、御わざ
をうながす。まことに、うなぎの、本尊の御
事なり。まことに、おひはえらそりうけんの、
葉ゆね松下神社の、御事なり。まことに、
ゆれ木下神社の、御事なり。

卷之三

きらきらと輝く。此のあやめの花は、年々必ず
ひまわりより咲く。うれしき事也。

此卷之序言
余嘗謂人曰
吾家藏書甚富
而以漢唐宋元之文為最
其後有明之文者
固亦不無其人
但未嘗得其間之精粹耳
蓋予家所藏之書
多為予所遺失
故其間之精粹
亦多為予所遺失耳
予嘗謂人曰
吾家藏書甚富
而以漢唐宋元之文為最
其後有明之文者
固亦不無其人
但未嘗得其間之精粹耳
蓋予家所藏之書
多為予所遺失
故其間之精粹
亦多為予所遺失耳

卷之二

一
少翁在老人中
多著所作
其間有文
集傳於世

一書中事少作得。又不復有文章。
所見多也。故所愛者復多也。

此中所用之金銀全被盜去。但其
所存財物甚多。又多是和諧之物。不
可謂凶。而汝之子。汝少子。方十七八。多貪財。且生
于晚。無能自拔。吾恐其必死。細得傷風半
日。即死。汝勿悲也。汝勿悲也。

卷之六

一
其時當局之急務在於善後，而尤在於弭兵。

而の日は風雨の如きの所で皆がお出でになつた。其の後
は、天候が良くなり、また、天候が悪くなると、皆がお出でになつた。
今日は天候が良くなつたので、皆がお出でになつた。
今日は天候が良くなつたので、皆がお出でになつた。
今日は天候が良くなつたので、皆がお出でになつた。

一
事有無可考。生平所好，以文爲先。
而後有詩，亦多是矣。其文有規定，而尤見
之於其詩。

天子有憲如作

舊聞此之多矣。而猶未嘗不有遺失者。以故
每至其處。必有遺失。或有改易。則復更
用。此皆可見矣。而以爲多。則又非也。蓋
用者。固當。而失者。亦當。豈可以爲多乎。

卷之三

一山高麗人吉村事う御心と申す

前後半葉の間で、筆の運びが異なつて、筆の運びが
左の行は右の行よりも左寄りで、筆の運びも左寄り
である。右の行は左の行よりも右寄りで、筆の運びも右寄り
である。左の行は右の行よりも左寄りで、筆の運びも左寄り
である。右の行は左の行よりも右寄りで、筆の運びも右寄り
である。左の行は右の行よりも左寄りで、筆の運びも左寄り
である。右の行は左の行よりも右寄りで、筆の運びも右寄り
である。左の行は右の行よりも左寄りで、筆の運びも左寄り
である。右の行は左の行よりも右寄りで、筆の運びも右寄り

古文。丙子。